

「香港・台湾等へ桃を輸出」

＜事業者の概要＞

1. 所在地：岡山県総社市門田85
2. 代表者：組合長 秋山 陽太郎
3. 主な品目：白麗、恵白等
4. 主な輸出先国：香港、台湾、シンガポール、インドネシア、アラブ首長国連邦等
5. 事業概要：1968年に「日本一の桃作りと高収益・経営安定」を目的に組織。桃の樹が持つ力を最大限引き出す「岡山自然流桃栽培」で高品質な桃を生産。事務局は、JA晴れの国岡山。組合員数は12戸、栽培面積は15ha、平均年齢39歳の農業者で構成する生産組合。生産から選果・こん包まで一貫して行う完全共選。



出荷用の箱に詰められた桃 台湾の中秋節商戦に向けた箱詰め作業

【輸出の取組内容】

- ターゲットを富裕層とし、アジア圏の中元節・中秋節向けとして白桃を約20品種ラインナップ。現地販売先等から注文多数。
- 直接取引は行わず、輸出に強い大田市場（東京都）や大阪市場本場（大阪市）の仲卸を通じた間接輸出。生産量に占める輸出の割合は、約1割弱。
- 2018年アラブ首長国連邦及びオマーンへの輸出を開始。同年12月にオマーン大使館で開催されたレセプションに参加し、招待客に桃を提供した。

【取り組み経緯】

- 2008年頃から、JA晴れの国岡山（旧JA岡山西）と連携し、香港向けに白桃の輸出を開始。
- 2012年から岡山県の呼びかけに応じて、台湾への桃輸出を開始。
- 総社市に仲卸である現地合弁会社を紹介され、2018年アラブ首長国連邦及びオマーンへの輸出が実現。

【課題と対応方法】

○他産地との競合

→アジアにおける日本産桃の知名度は高いが、他産地との競合を避けるため、ターゲットを中東諸国にした。中東諸国は経済発展が著しく、富裕層が多い地域ながら日本産桃の流通は少なく、市場性も高いことから、新たな市場として開拓した。

○効果的なプロモーション

→海外における桃のプロモーションで、甘さよりも香りが良いと評価される。岡山産の桃は他産地より香りが強い点を売りに、プロモーションを展開。オマーン大使館のレセプションでは、招待客を通してPRを実施。

【実績】

輸出額(万円)		輸出国割合(%) (2020年)	
2018年	1,000	香港	60
2019年	1,000	台湾	20
2020年	1,000	シンガポール	15
		その他	5

【今後の事業展開】

- ✓ EU諸国のバイヤーの参加する商談会への参加や、現地でのプロモーション活動を積極的に行い、市場規模が大きいEUでの販路拡大を図る。
- ✓ 中東向けに年間約1トンの輸出を目指す。（アラブ首長国連邦、オマーン、バーレーンなど）